

## 第6章 数値目標の設定と進捗管理

### 1. 数値目標(KPI)の設定

本計画の目標達成へ向けた各種取組の進捗状況や妥当性を定量的に評価するため、居住・都市機能・公共交通に関する数値目標を次の通り設定します。

#### 【目標値の設定】

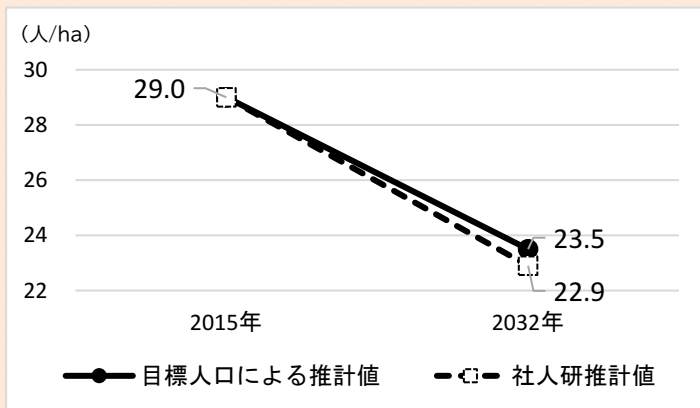
評価指標	単位	現況値	目標値
① 居住誘導区域内の人口密度	人/ha	29.0 人/ha (2015 年) (約 10,000 人)	23.5 人/ha (2032 年) (約 8,100 人)
② 都市機能誘導区域内の誘導施設に定めた施設数	施設	33 施設 (2021 年)	30 施設 (2032 年)
③ 公共交通利用者数 (地域間幹線利用)	人	約 30,000 人 (2021 年)	32,300 人/年
④ 空き家バンク成約件数 (居住誘導区域内)	件/年	10 件/年 (直近 3 年の平均件数)	10 件/年

#### ① 居住誘導区域内の人口密度

平成27年(2015年)の国勢調査を基にした居住誘導区域内の人口密度は29.0人/ha(人口約10,000人、居住誘導区域面積345.1ha)です。

社人研の推計を基にした2032年の居住誘導区域内の人口密度では22.9人/ha(人口約7,900人)まで減少が見込まれていますが、居住誘導区域内への誘導施策の実施により、雲南市の目標人口(2024年:33,800人 ※市全域人口)を基に推計した、2032年の居住誘導区域内の人口密度23.5人/ha(人口約8,100人)を目指します。

【居住誘導区域内の人口密度】



2032年に  
**23.5 人/ha**

目標人口による推計値: 令和2年の国勢調査結果を踏まえ見直した目標人口より推計した、居住誘導区域内の人口密度  
社人研推計値: 2030年・2035年の将来推計メッシュ人口より算出した、居住誘導区域内の人口密度

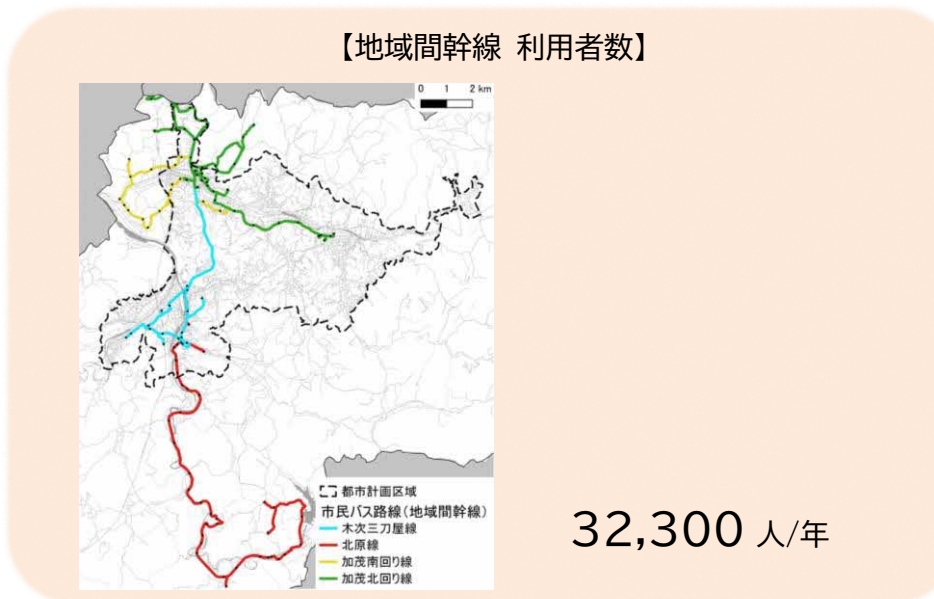
② 都市機能誘導区域内の誘導施設に定めた施設数

3つの都市機能誘導区域内において、設定した誘導施設は現在33施設あり、人口減少による施設数の減少も予測されますが、既存施設の維持や新たな施設の誘導を図ることにより、2032年において30施設を維持することを目指します。



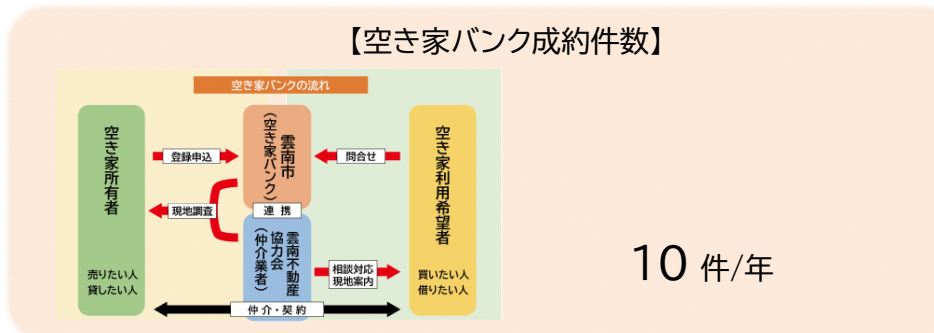
③ 公共交通利用者数(地域間幹線利用)

雲南市内の隣接する地域間を運行する地域間幹線4路線(北原線、木次三刀屋線、加茂南回り線、加茂北回り線)の利用者数を数値目標に設定します。雲南市地域公共交通網形成計画での目標値である32,300人/年を踏襲します。



④ 空き家バンク成約件数(居住誘導区域内)

空き家対策基本計画等でも対策が計画されている空き家ですが、居住誘導区域内の空き家については、利活用の促進を図るために毎年10件の空き家を空き家バンクによって成約することを目指します。



## 2. 期待される効果

本計画に基づき実施する施策効果を確認するため、住みやすさの満足度と中心市街地の満足度についての数値目標を次の通り設定します。

評価指標	現況値	目標値
住みやすさの満足度※ <sup>1</sup>	75% (2021年)	80% (2032年)
中心市街地の満足度※ <sup>2</sup>	61% (2021年)	67% (2032年)

※1: 毎年度実施している市民アンケート調査の「雲南市が、安心して暮らし続けられるまちであると感じますか」という項目に、「感じる」「やや感じる」と回答した人の割合。

※2: 同じく市民アンケート調査の「雲南市の中核拠点ゾーンが便利で賑わいがあると感じますか」という項目に、「感じる」「やや感じる」と回答した人の割合。目標値は雲南市総合計画後期基本計画(令和2～6年度)に定める成果指標を参考

## 3. 計画の評価と見直し

本計画は概ね10年後の令和14年度(2032年)を目標年次としています。

その進捗管理のため、計画に基づく施策の実施状況の確認や、目標達成状況の確認・分析・評価を行います。その上で、計画や施策の見直し・改善を図る、いわゆる「PDCA サイクル」を繰り返すことにより、計画の目標とする都市構造の着実な実現を目指します。

